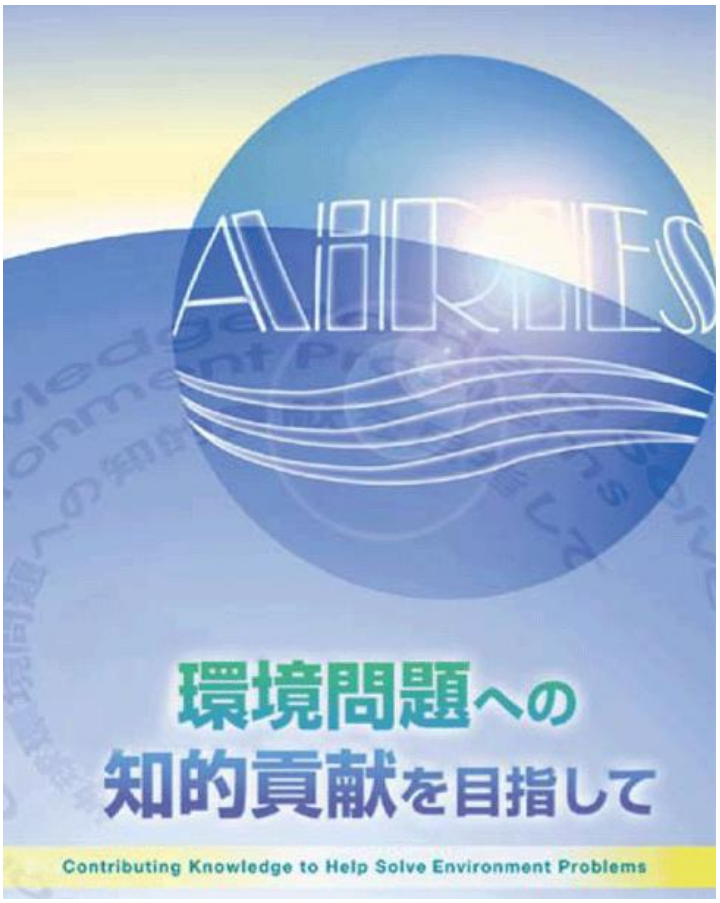
国際環境研究協会ニュース

AIRIES NEWS

2009年8月1日 第158号



CONTENTS

1　協会業務報告
2　英文誌最新号のご案内 “New Horizons in Global Environmental Research Biometeorological Aspects”
3　プログラムオフィサー〈地球環境研究総合推進費〉自己紹介
第４研究分科会　宇都宮　陽二朗
4　「感覚環境のまちづくり事例集」のご紹介
5　業務日誌

協会業務報告

高木宏明(専務理事)

今年の夏休みも真っ盛りというところですが、学校が休みになったとたんに天候が不順になって、がっかりしている子供たちも多いのではないかと想像します。西日本、特に九州北部と山口県では記録的な集中豪雨に見舞われ、夏休みどころではなかったと思います。このような記録的な豪雨があると、温暖化すると豪雨の頻度や強度が増すとの予測もあるので、温暖化の影響かというような論調も現れがちですが、今回はなかったように思います。暑くならないと温暖化と結びつかないのでしょうか。もっとも、科学的には、このような個別の豪雨が温暖化の影響かどうかは言えないわけですが。

夏休みを楽しむことができるように、8 月は夏らしい天気が戻ってきてほしいものですね。夏らしくなると暑くてたまらないから早く秋にならないかなと思ってしまいますが、一方では、その暑さがないと夏を過ごした気にはならないという思いもあります。

私のもう一つの職場のある横浜みなとみらいは、夏休みとともに平日にも親子連れがどっと繰り出してにぎやかになっています。夏休みが横濱開港 150 周年記念の「開国博 Y150」の中心的な期間ですから、毎日さまざまなイベントが開催されており、それを目指して親子連れや若者が来るというおなじみの構図です。開国博の中心エリアである赤レンガ倉庫などからオフィスが離れていることもあり騒々しさはありませんが、昼食時にレストランなどが混雑しますし、行き帰りの電車も普段より混雑しますので、そこを職場とする身にとってはあまりいいことはありません。

一方、政治の世界では、7 月 21 日に衆議院が解散されました。与党内でいろいろともめごとがありましたが、やっと解散という区切りが示されたというところでしょうか。衆議院議員選挙は 8 月 18 日公示で 8 月 30 日投票ということですが、1 ヶ月も先ということで忘れてしまいそうですね。この忙しい世の中、1 ヶ月前の出来事はずっと昔のことに思えてしまいますし、夏休みをとって気分をリフレッシュするとなおさらのことです。東京都議会選挙で大敗した与党は、もちろんこのような効果も計算に入れているのでしょう。

マスコミによれば民主党が大幅に伸びるということでは一致しており、今のところ、民主党への政権交代が行われる可能性がかなり高いようです。どのような形の政権になるのかは、選挙が終わらないとわかりませんが。

政権交代が行われると霞が関は大変でしょうから、選挙の行方に大きな関心があるでしょうが、公益法人も、霞ヶ関の動向や公益法人改革の方向付けにより大きな影響を受ける可能性がありますので、同様に関心を持たざるを得ません。ただ、今から 1 ヶ月先のことを考えても仕方がありませんから、夏休みを充分にとってリフレッシュし、秋以降の陣に備えるのが良策かなと思います。

さて、協会の業務は、順調に進んでいます。7 月にもご報告しましたが、7 月末から 8 月初旬にかけて地球環境研究総合推進費の中間・終了評価の研究分科会がありますので、その対応を行う必要があります。また、地球温暖化対策技術開発事業等の二次募集が行われていますが、その新規採択事業の選定などを行う委員会が 9 月に開催されますので、8 月末ごろからはその準備作業が出てきます。新たな企画競争や入札の案件は、想定されているものはありますが、現在のところまだ公示されていません。

今後とも、ご指導・ご支援のほど、よろしくお願いします。

英文誌最新号のご案内

New Horizons in Global Environmental Research: Biometeorological Aspects

８月上旬に、英文誌‘Global Environmental Research’Vol.13 No.1“New Horizons in Global Environmental Research: Biometeorological Aspects”を刊行致しました。

山梨医科大学名誉教授、現在は「ひかりの里クリニック」院長でいらっしゃいます 入來正躬先生に責任編集委員としてご編纂頂きました。なお、入來先生におかれましては今特集号を最後に、集委員をご退任されることとなりました。創刊当初より10年以上にわたってご尽力くださいましたことを、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今特集号の査読等では、入來先生の旧友でもある Eckhart SIMON 氏(Giessen University 名誉教授)にご協力頂きました。“Biometeorology 生気象学”の研究分野は多岐にわたりますが、その中でも特に地球環境問題に関連した研究成果を掲載しております。

各論文のタイトル及び著者は次の通りです。

CONTENTS

・Preface …… M. Iriki & E. Simon

I) History of Biometeorology in Japan

・Development of Bioclimatological Thought in Japan from Ancient Times to Present …… M. Yoshino

・Recent Progress of Biometeorology in Japan, with Special Emphasis on the History of Japanese Society of Biometeorology …… Y. Inaba & M. Kikuchi

II) Current Issues of Biometeorolgical Research

A) Effects of Temperature on the Human Individual

・Guideline for the Prevention of Heat Disorder in Japan …… M. Asayama

・Thermal Problems in Hyperbaric Environments … N. Kakitsuba

・Thermoregulatory Adaptation in Humans and Its Modifying Factors …… N. Kondo *et al.*

・Thermal Comfort in Outdoor Environment …… T. Honjo

・Review on Practical Use of Weather Forecasting for Health in Japan and Germany …… Y. Fukuoka

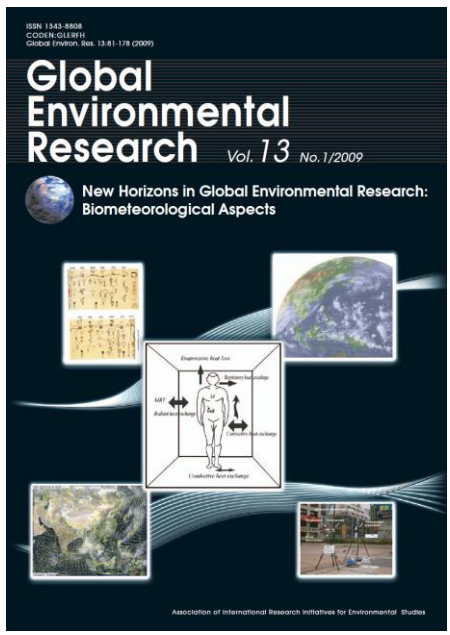
B) Impact of Climatic Changes on Human Living Conditions

・Japanese Cedar Airborne Pollen Monitoring by Durham’s and Burkard Samplers in Japan: Estimation of the Usefulness of Durham’s Sampler on Japanese Cedar Pollinosis … R. Kishikawa *et al.*

・Agro-climatological Aspects of the Global Warming and Its Impact on Paddy Rice Cultivation in East Asia …… Y. Hayashi

・Extreme Climatic Events in Recent Years and Their Links to Large-Scale Atmospheric Circulation Features …… S. Yamakawa & R. Suppiah

・Today’s Biometeorology for Tourism/Recreation …… T. Ichinose & O. Matuschek



プログラムオフィサー(地球環境研究総合推進費)自己紹介

第4研究分科会　宇都宮　陽二朗(うつのみや　ようじろう)

4 月より地球環境研究総合推進費第 4 研究分科会の担当 PO（プログラムオフィサー）を務めることになりました宇都宮です。この 3 月末に特任時代を含め 9 年間勤めた三重大学から離れ、自分の時間を楽しみつつありましたが、当協会で PO を務めることになり、未だ引越荷物が整理できていない状態です。

その前は国立環境研究所で 26 年余、環境データベース構築、リモートセンシングや GIS 研究に携わっていました。この間に各 1 年、環境庁企画調整局企画課、国立環境研究所の企画官を併任し行政見習いも経験しています。研究分野では、プログラミングの初歩から学習し、多変量解析の大家とその弟子達の傍、門前の小僧よろしく統計学のイロハをかじり、研究にも利用させてもらいました。後半の 10 年は老後の予備研究として、また、地理情報研究の一環としての地球儀研究を手がけ、大学に移っては研究費の乏しさもあり、軸足は次第に地球儀研究へ移り、今は老後の道楽研究となっています。

私の専門分野は若い頃は自然地理学（地形学）でしたが、時系列的に示すとその後、白馬の活断層、霞ヶ浦の湖底地形及び周辺地形、関東平野の光化学スモッグ被害度、熱収支に基づく土壌水分のリモートセンシング、ボランティア活動、ナホトカ号流出油に関連した防災の GIS 構築、古地図、内外の古地球儀、絵画の中の地球儀、津軽十二湖に関わる地滑りと昔話、コンクリートつららなど、自然及び人文地理から社会学、災害論まで多岐にわたります。他に、掌からこぼれ落ちつつある伊勢茶や大気汚染に関する研究など、手がけた課題では何らかの結果を残したいと未だ枯れず、足掻きつづけています。

PO として、地球環境推進費に関わり 3 ヶ月が過ぎました。昔、旅先で訪れた萩の窯元の主人の言葉そのままですが、科学研究費補助金や国土庁振興調整費による研究を通じて、多額の研究費が研究者の手を荒らすということを体験しています。私自身、常に正確な記載を残しているわけではなく、査読の甘さから、未だ恥を晒している状況です。これらの経験から、各研究課題担当者には、査読などで厳しく対応してきました。行政文書又は研究論文の如何を問わず、研究者や物書きは手放す文章に常に注意を払うことが求められていると思います。研究担当者が推進費の目的に沿い最大の成果を上げられるように調整・支援を行うという役割の他に、研究レベルの維持、手荒れ防止も PO の一つの大きな使命と思っています。なお、私の査読の基本の一端は、三重大の地域交流誌 TORIO（2009;HP 掲載）に投稿したエッセイ「地球儀研究こぼればなし」の後段にあります。日本語としては未熟な駄文ですが、ここでは「人文系分野」を「環境、人文及び社会科学」などに読み替えていただければ幸いです。短い間となると思いますが、PO の任務を果たしていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

「感覚環境のまちづくり事例集」のご紹介

平成 20 年度事業で環境省より受注した「感覚環境のまちづくり事例集」のご紹介です。

この事例集では、熱、光、かおり、音といった感覚環境の新しい視点からまちづくりを進めている地域を取り上げ、社会・自然・気候・風土・文化、レポート「感覚環境のまちづくりを訪ねて」、環境データなどの観点から、分かりやすく取りまとめました。

なお、事例集は、環境省ホームページ（http://www.env.go.jp/air/sensory/jireishu/index.html）から入手することができます。

目　次

1. 奈良（奈良県奈良市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
「五感で楽しむ奈良」のまちづくり

2. 松本（長野県松本市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
長野県松本市から学ぶ「かおりのまちづくり」

3. 松江（島根県松江市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
湖沼環境を「五感」で体感する

4. 大丸有（だいまるゆう）地区（東京都千代田区）／中之島地区（大阪府大阪市北区）・・・・・・35
涼感あふれる都市空間づくり

5. 浜松（静岡県浜松市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
「音・かおり・光環境創造条例」とまちづくり

6. 京都（京都府京都市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
光を使った「まちづくり」の試み

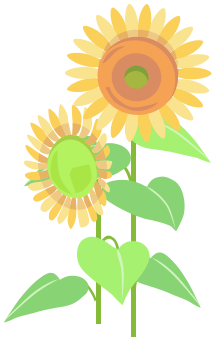
7. 郡上八幡（岐阜県郡上市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77
名水と暮らすまちづくり

8. 平野（大阪府大阪市平野区）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・89
「音博物館」を生んだまちづくり

9. 富良野（北海道富良野市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・101
レジャー施設依存の「まちづくり」から、自然のフィールドへ

10. 彦根（滋賀県彦根市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・113
音や色、伝統文化を生かした「まちづくり」

付録　残したい“日本の音風景 100 選”・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・125
かおり風景 100 選・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・126



ASSOCIATION OF INTERNATIONAL RESEARCH INITIATIVES FOR ENVIRONMENTAL STUDIES

業務日誌　（2009年7月）

7/1(水)：技術推進費分科会(自然分野)への出席および開催支援

7/2(木)：地球推進費担当課題のアドバイザリーボード会合に出席（東京）
会誌編集委員会開催

7/2(木),3(金)：日本微量元素学会に出席（東京）

7/3(金)：地球推進費担当課題のアドバイザリーボード会合に出席（東京）

7/8(水)：地球推進費企画委員会に出席
技術推進費総合研究開発推進会議に出席
地球推進費担当課題のアドバイザリーボード会合に出席(東京,札幌)

7/9(木)：地球推進費担当課題のアドバイザリーボード会合に出席（東京）

7/13(月)：地球推進費担当課題のアドバイザリーボード会合に出席（東京）

7/16(木)：地球推進費　環境省 PO PD 打合せ

7/17(木)：地球推進費担当課題のアドバイザリーボード会合に出席(我孫子,横浜)

7/21(火)：環境省 地球温暖化対策課打合せ
地球推進費担当課題勉強会に出席（東京）
地球推進費担当課題のアドバイザリーボード会合に出席（東京）

7/22(水)：地球推進費担当課題のアドバイザリーボード会合に出席（東京）

7/23(木)：地球推進費第１研究分科会（戦略課題）への出席および開催支援

7/24(金)：地球推進費担当課題のアドバイザリーボード会合に出席（金沢）
地球推進費担当課題の成果発表シンポジウムに出席（東京）

7/25(土)：ツバルサンゴ・シンポジウムに出席（東京）

7/28(火)：地球推進費担当課題のアドバイザリーボード会合に出席（金沢）

7/29(水)：地球推進費担当課題のアドバイザリーボード会合に出席(東京,つくば)

7/30(水)：地球推進費第１研究分科会への出席および開催支援

＊ 地球推進費：地球環境研究総合推進費
技術推進費：環境研究・技術開発推進費

みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

AIRIES NEWS

AIRIES NEWS

編集･発行
社団法人国際環境研究協会
(日本学術会議協力学術研究団体)

〒110-0005 東京都台東区上野 1-4-4
TEL:03-5812-2105
FAX:03-5812-2106
E-mail:airies@airies.or.jp
Homepage:http://www.airies.or.jp